

プロジェクト概要	2025年度に道内の多くの交通事業者等が参画して構築した「ぐるっと北海道」において、モデル地域での複数交通モードが連携した標準化対応QRコード改札導入、複数交通モード連携の拡充、観光コンテンツ連携による付加価値向上、サイトの機能強化等を通じて、データ活用の拡充・高度化を図り、道内周遊促進と道内観光消費拡大を図る。		
課題	● 道内観光では、宿泊者の道央圏集中などの「地域偏在」と、観光需要が季節によって大きく変動する「繁閑格差」が課題である。さらに地方部では、二次交通の脆弱さや、交通・宿泊・観光情報が一元化されていないことが、誘客・周遊や消費拡大を妨げている。		
取組内容	[交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)] ● モデル地域(網走地域・根室地域)において、複数交通モードが連携した標準化対応QRコード改札を導入する。これにより、利用者の利便を向上し、事業者の目視負担等を軽減する。 ● 「都市間バス乗り放題」やバス・鉄道とタクシー・デマンド交通との組み合わせ等、マルチモーダルなデジタルチケットを造成・拡充する。 ● 交通デジタルチケットの購入希望者に到着地・経由地等の関連交通のチケットや情報等を提示する「おすすめ機能」等の実装により、利用者にサイト上でのシームレス体験を提供する。		
	[モビリティ・データの取得と活用] ● エンドコンテンツの購買・利用状況と、モデル地域でのODデータ等を掛け合わせ、北大の協力で分析し、道内観光の付加価値向上に向けたマーケティングミックスに活用する。		
	[エンドコンテンツとの連携] ● 観光コンテンツ等と交通を組み合わせた付加価値の高いデジタルチケットを拡充・造成する他、新たに実装する「おすすめ」機能で関連観光を提示する。 ● 「QRコード改札」導入モデル地域で、地元学生の消費拡大策との連携方策を展開する。		
	[協業化・共通化・標準化] ● 「QRチケット相互運用API標準仕様書」への適合性を高め、今回のQRコード改札導入モデル地域で先行実装するとともに、隣接地域のQRシステムとの連携を協議する。 ● 順次、標準化対応のQRシステムの導入・連携範囲を拡大し、将来的には全道展開を目指す。		
効果	● 「ぐるっと北海道」に関連するデジタルチケットの販売が前年比で20%増になり、公共交通利用増、交通事業者の収入増に寄与する。 ● QRコード改札導入モデル地域・事業者において、交通利用増や消費拡大効果が確認できる。 ● 上記により、分析・活用できるデータが拡充し、周遊促進策や消費拡大策の改善に寄与する。		
事業の新規性	■ 「ぐるっと北海道」サイトについて、初年度の2025年度は多くの事業者の参画を重視して事業を進めてきたが、2026年度は、マルチモーダルなデジタルチケットの拡充や付加価値の高い観光コンテンツ等との連携、サイトの改善等により、道内全域での交通利用増・観光消費拡大にとって効果の高い事業を目指す。 ■ 特に「QRコード改札導入モデル地域」については、詳細なODデータの把握と消費拡大策との組み合わせ等により、全道展開が期待できる事業になりうる。		
事業エリア	北海道全域(QRコード改札導入モデル地域及び関連地域:網走市・小清水町・斜里町・清里町・北見市・根室市・浜中町・厚岸町・釧路市 その他の主たる地域:札幌市・小樽市・函館市・北斗市・木古内町・江差町・上ノ国町・帯広市・音更町・池田町・新得町・紋別市等)		
交通事業者	航空:JAL・ANA 鉄道:JR北海道、道南いさりび鉄道、函館市電、札幌市電 バス:北海道バス協会・北海道中央バス・網走バス・根室交通・北海道拓殖バス等17社 タクシー:北海道ハイヤー協会 オンデマンド交通:網走バス、道内自治体(依頼予定)		
MaaSアプリ等	● MaaSプラットフォーム:アルタイルトリプルスタークラウド ● フロントエンド:ぐるっと北海道(改修) ● 経路検索機能:Gemini、Google Map ● デマンド交通配車システム:SAVS等 ● ダッシュボードシステム:アルタイルトリプルスタークラウド		
データの活用等	■ データの取得方法:デジタルチケットの販売・利用データ、QRコード読み取り機・携帯電話位置情報によるODデータ、サイトへの流入・利用データ ■ データの活用方法:デジタルチケットの販売・利用データはダッシュボード上で活用、ODデータとあわせて北大の協力を得て分析し、観光消費拡大策や交通利用拡大策に活用		
座組	全体統括・企画運営・関係者調整・システム改修・ QRチケットAPI標準化対応・QRコード改札導入 ウェルネット 企画運営への協力・関係者調整 道経連 網走バス(オホーツク地域) 根室交通(根室地域) 事業への助言・プロモーション協力 北海道観光機構・道商連 HAP・JAL・ANA 新幹線木古内駅活用推進協議会・新函館北斗駅広域観光推進協議会・東急不動産 実証運行・企画券販売 プロモーション協力 道内交通事業者20社 (鉄道4・バス16) 新規参画者の紹介 プロモーション協力 北海道バス協会 北海道ハイヤー協会 データ分析 企画券造成協力 北大 dec		
スケジュール	4～6月 準備・関係者調整・要件定義・標準仕様書の確認 7月～ 新規造成チケット等準備が整ったものから実証開始 7～10月 システム改修、標準化対応、QRコード読み取り機器設置 11月～2月 全面実証 2月 データ分析等		